くにたち公民館だより

第 766 号
2023年12月5日
（令和5年）

「くにたち公民館だより」
ホームページの QR コード▶

〈特集：くにたち公民館と詩の世界①〉12月23日（土）講座案内

いま、戦後詩をみつめる

講演と対談　河津 聖恵×水島 英己

くにたちゆかりの２人の詩人が、敗戦後を生きた青年たちのほとばしる思いと時代背景をひもとく――。今月号は、詩をテーマにした講座の案内（１ページ）に合わせて、これまでの公民館における詩作の講座やサークル活動をふり返る記事をまとめました（2-3ページ）。

１９５０年頃。敗戦後の日本には、詩を書くことで戦争の記憶と向き合い、死者を哀悼し、深い虚無感から生き直そうとした文学青年たちがいました。そして様々な詩のグループが作られていきます。これまで詩とは無縁だった生活者や労働者の間にも、詩を書く運動が蘇生のエネルギーのごとく広がっていきました。両者の渦動が相まって、戦前の抒情詩（じょじょうし）などとは全く異なる、斬新で魅力的な作品が次々と誕生します。

この講座では、代表的な詩のグループ「荒地（あれち）」（鮎川信夫・田村隆一など）と「列島」（関根弘・野間宏など）の活動をふり返りながら、現代詩の始まりである戦後詩とは何か、そこにどんな希望と課題があったのか、それらが今に問いかけるものは何かを、具体的な作品に触れながら考えていきます。（※下段は戦後詩の一例）

母よ誰が　　黒田三郎

母よ
誰があなたの頬から美しい輝きを奪ひ
あなたのしなやかな指を刷毛のやうに
　荒らしてしまつたのか
母よ
誰があなたの澄んだ湖水から静かさを
　奪つてしまつたのか
僕は問ひ
幾度となく僕に問ひ
徒に昨日も同じ問ひを問ふたことを
　思ひ出し
壁を眺め
そして壁を眺めるのみである

戦争は父や息子や兄弟を
妻や母や妹の手からもぎとつた
木の実のやうにもがれた男達が
次々に船艙をみたし
海の彼方へ送られて行つた
故国をはなれ
五年の間椰子油と黒糖と石油の臭ひの
　なかで
僕は暮らしてゐたのである
故郷が戦火に焼かれ
故郷が死んだ人の臭ひであふれてゐる
　時にも
僕は南十字星のかがやく空の下で
暮らしてゐたのである
（後略）

※黒田三郎…1919～1980。戦後、南方から帰国、放送局で働きながら詩作。「荒地」同人。

発　行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
TEL 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日

◆講座内容・講師プロフィール◆

と　き　12月23日（土）昼２時～５時　ところ　公民館地下ホール
定　員　60名（申込先着順）　**申込先**　12月８日（金）９時～
公民館☎（572）５１４１

第１部　第41回現代詩人賞受賞詩集『綵歌（さいか）』について
―伊藤若冲（じゃくちゅう）へのオマージュをこめて―（河津聖恵）
第２部　講演「いま、戦後詩をみつめる」（河津聖恵）
第３部　対談（河津聖恵×水島英己）

河津（かわづ）　聖恵（きよえ）

詩人、評論家。
国立市出身。
2003年、“詩の芥川賞”と評される H氏賞（第53回）を『アリア、この夜の裸体のために』（ふらんす堂）で受賞。23年、伊藤若冲の作品をモチーフとした連作詩集『綵歌』（ふらんす堂）で第41回現代詩人賞を受賞。他に、『ハッキョへの坂』（土曜美術社出版販売）『「毒虫」詩論序説―声と声なき声のはざまで』（ふらんす堂）など著作多数。

水島（みずしま）　英己（ひでみ）

詩人。
奄美徳之島出身。
2004年、『今帰仁で泣く』（思潮社）で第27回山之口獏賞受賞。他に、『小さなものの眠り』（思潮社）『野の戦い、海の思い』（思潮社）など著作多数。
2009年から中断はあったが公民館主催「古典講座」の講師を務め、近年は、今年まで５年連続して「『万葉集』を読む」の講師を担当。次ページ特集の詩人・映画監督の福間健二さんとは永年の詩友。

今月の公民館（12月～１月）

12月14日（木）夜　ブッククラブ　安部公房『箱男』
16日（土）昼　多文化共生事業
　「アイヌ民族の世界観と暮らし」
17日（日）昼　CINEVOX（シネボックス）　『太陽がいっぱい』
23日（土）昼　「いま、戦後詩をみつめる」
１月９日（火）夜～　日本語教育入門
13日（土）朝　図書室のつどい
　『旅が教えてくれた
　　人生と仕事に役立つ100の気づき』
13日（土）昼～　哲学講座
　「長谷川宏さんと読む『日本精神史　近代篇　上』」
20日（土）昼　映画上映会『立ちどまった恋』
28日（日）朝～　くにたちバードウォッチング入門

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。
公民館　☎（572）５１４１

公民館の状況▲

〈特集：くにたち公民館と詩の世界②〉

「詩のワークショップ」と福間健二

―ことばの生まれる場所、そこに居たあのひと―

公民館では2002年から12年間にわたり「詩のワークショップ」を開催してきました。講師を務めたのは、詩人・映画監督の福間健二さん。この特集では、これまでの公民館と詩作の出会いとつながり、市民の詩作を支え続けてくださった福間健二さんとの関わりをふり返ります。

福間　健二（ふくま　けんじ）

詩人、映画評論家、映画監督。首都大学東京名誉教授。
1949年、新潟県に生まれる。2023年４月に逝去。
1969年より詩を発表。
詩集に、『沈黙と刺青』（あんかるわ叢書刊行会、1971）『急にたどりついてしまう』（ミッドナイト・プレス、1988）『秋の理由』（思潮社、2000）『青い家』（思潮社、2011、第19回萩原朔太郎賞および第49回藤村記念歴程賞受賞）『会いたい人』（思潮社、2016）他多数。評論・評伝、翻訳も多数手がける。
映画監督作品に、『急にたどりついてしまう』（1995）『秋の理由』（2016）『パラダイス・ロスト』（2020）など。第７作目の『きのう生まれたわけじゃない』（2023）は主演も務め、最新作にして遺作となった。

枯草通信局

福間健二

このドア
どうあけてどうしめるのか
わからない。
人のまぶたのなかに
自転車で迷い込んでも
あの山に見つめられているだけでは。
でんぱのかわりに風のささやきが
ネットワークをつくる枯草通信局
勤めはじめたばかりの彼女
ある日
詩を書きたいと隣の枝に言う。
だれにも抱きしめられない
風の精になって。

（『会いたい人』所収）

いまから20年ほど前。〈図書室のつどい〉「詩の朗読とトーク」で二人の詩人、福間健二さんと井坂洋子さんが自作詩を朗読しました。当時の公民館職員が、福間さんから英国ウェールズでは詩の朗読会が各所で行われていると聞いたことをきっかけに、日本でもできないかと相談したことから、詩と、福間さんと、公民館のつながりが育まれていきました。

2011年の講座の様子
福間さんを囲んで

2002年には、それから12年間続くことになる「詩のワークショップ」講座の第一期が始まります。６回にわたり行われた講座は、受付がはじまるとすぐに定員いっぱいになり、みなさん熱心に参加されました。

◆福間健二さんと公民館の詩をテーマとした講座のあゆみ（2000年～2013年）◆

年	日にち	講座タイトル	講師
2000	１月26日	〈映画の話〉イギリス映画事情	福間健二
2001	３月23日	〈図書室のつどい〉詩の朗読とトーク	福間健二、井坂洋子（詩人）
2001	10月23日	〈青年講座〉詩の表現について	福間健二
2002	２月15日	〈図書室のつどい〉詩の朗読とトークⅡ	小池昌代（詩人）、福間健二
2002	４月～７月	詩のワークショップ〈第１期〉（全６回）	福間健二
2003	１月24日	〈図書室のつどい〉詩の朗読とトークⅢ	ロイド・ロブソン（詩人）、福間健二
2003	４月～７月	詩のワークショップ〈第２期〉（全６回）	福間健二
2004	３月19日	〈図書室のつどい〉詩の朗読とトークⅣ	石井辰彦（歌人）、福間健二
2004	４月～７月	詩のワークショップ〈第３期〉（全６回）	福間健二
2005	４月～７月	詩のワークショップ第４期（全６回）	福間健二
2006	５月～７月	詩のワークショップ第５期（全６回）	福間健二
2007	９月～12月	詩のワークショップ第６期（全７回）	福間健二〈ゲスト〉、荒井豊美、井坂洋子、藤井貞和
2008	９月～12月	詩のワークショップ第７期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、財部鳥子（詩人）、岩佐なを（詩人）
2009	９月～11月	詩のワークショップ第８期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、須永紀子（詩人）、藤原安紀子（詩人）
2010	９月～11月	詩のワークショップ第９期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、鳥居万由実（詩人）、文月悠光（詩人）
2011	８月～11月	詩のワークショップ第10期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、手塚敦史（詩人）、小池田薫（詩人）
2012	９月～11月	詩のワークショップ第11期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、鈴木志郎康（詩人）、井川博年（詩人）
2013	８月～11月	詩のワークショップ第12期（全６回）	福間健二〈ゲスト〉、三角みづ紀（詩人）、暁方ミセイ（詩人）

当時をふり返って、担当職員はこのように綴っています。「毎回の資料は何ページにも渡り、多くの詩に出会えるように福間さんが作ってくれた。ゲスト講師も呼んだ。一期が終わるごとに十ページ近くの『まとめと感想』も福間さんは作られ、三十人の受講者一人一人の詩にコメントを書いてくれた。人の関係をつむぎ、豊かな詩の時間を作ってくれた。その『まとめ』に福間さんは書いている。『書くこと、表現することは、孤独な行為である。／大切なのはその孤独のなかで、いろんな出会いをもつことだ。』」(『現代詩手帖2023・8』特集福間健二、エンドロールなき詩魂、和田まさ子「みんないる」より、思潮社)

2004年、第一期の講座に参加したメンバーが中心となり、詩のサークル「詩の会・福間塾」が生まれました。福間さんも、2年目からは講師としてではなく一参加者として活動にかかわります。月に一度、課題に基づいて書いてきた詩をそれぞれが発表、感想・意見を言い合う……。活動は今も、公民館を会場に続いていて、作品をあつめた詩集『アンソロジー』も毎年発行。公民館図書室で閲覧することもできます。

くにたちに住み、詩を地域にひらいてくださった福間さん。福間さんは詩集『青い家』のあとがきで、こう書かれています。「国立市公民館での『詩のワークショップ』で出会った人たちとも、同じ課題で、一緒に書いてきた気がする。ついでに、酒を飲む場面までつきあってもらった。詩を語る夕べ。その舞台となった国立のいくつかの飲み屋。そこから何度も別な自分になって夢のなかへと帰った。」(『青い家』福間健二、思潮社、2011年)

福間さんは、今年4月、74年の生涯を閉じられました。けれど、福間さんの遺してくださったことばの生まれる場所は、いまも生き続けています。

扉を開けて

丸田　麻保子

「詩のワークショップ」に参加し、その後自主サークル「詩の会・福間塾」で活動を続けられている丸田さんに《参加者の声》を寄せていただきました。

もしあなたが、詩なんて自分とは関係ないと思っていたのに、市内の掲示板に貼られた「詩のワークショップ」のポスターにふと目を留めたとして。参加条件は「日本語ができる人」。それだけ。ほんのすこし興味を持ったあなたは、申し込んでみることにするかもしれないし、そのまま忘れてしまうかもしれない。申し込んだとしよう。公民館の講座室に座って周りを見回したあなたは、年輩の参加者が多いことに気づいて緊張する。三十代、四十代は若手だ。開始時刻になった。黒地に白いストライプのジャージ、ジーンズの福間健二さんが講師席に腰を下ろす。あなたは思うかもしれない。これが詩人というものか。詩人は声がいいのだな。

毎年発行される詩集『アンソロジー』

詩のことはよく知らないけれどなんとなく参加してみた人も、隣席の人とペアになったり、参加者同士で自己紹介しあったりしながら、「言葉遊び」を始める。詩を読むだけでなく、自ら書くようになるのが「詩のワークショップ」だった。毎回、課題が出て、作品を事前に提出。詩を書くのが初めての人でも大丈夫。その人が生きていくなかで、生活するなかで生まれた言葉を福間さんは大切に受け取ってくれる。参加者の意見や感想を歓迎し、率直に返す。普段は首都大学で若い学生に囲まれていた福間さん。公民館では、親の世代の参加者の発言や作品を大いに楽しまれていたようだ。参加者同士も年代を超えて協力しあい、電話やメールや手紙でやり取りして、連詩を完成させた。さまざまな年代の参加者の、いろんな詩が提出された。おどろいたり、口元がゆるんだり、ドキッとしたり。詩を読みあった後にはみんなで居酒屋に行く。

扉を開けて、詩をもっと広い場所へ連れていく。参加者と詩の出会いの場をつくる。それが福間さんのしてくださったことで、だからこそ参加者たちの自発的な勉強の場として「福間塾」が生まれ、二十年近く経った今も続いていて、新しい参加者を歓迎している。

〈「立ち止まった恋」上映実行委員会主催：福間健二さんをしのぶ映画上映会〉

『立ちどまった恋』

出演　福間健二、暁方ミセイ、秋山基夫　ほか　　2023年／48分
撮影／編集　福井邦人　**撮影／プロデュース**　小山伸二

福間健二さんの、詩の朗読ロード・ムービーの上映会。

詩人は、国立市内や、全国のさまざまなところで、詩を読み、詩を書き、詩を語り、朗読もやってきた。今年、急逝した彼を追悼して、各地での朗読の旅を追いかけたドキュメンタリーを上映します。当日は、上映実行委員会のメンバーによるトークセッションも予定しています。

と　き　1月20日（土）昼2時30分～4時（開場2時）
ところ　公民館　地下ホール　　**定　員**　60名（申込先着順）
申込み　shoshi.azusa@gmail.com（小山）※メールにて申込受付

「立ちどまった恋」上映実行委員会：水島英己、千石英世、
和田まさ子、小峰慎也、小松宏佳、郡宏暢、小山伸二
協力：国立市公民館

哲学講座が20年目を迎えます

2004年度より開講してきた公民館主催の哲学講座「長谷川宏さんと読む一冊の本」は、今年度で20回目を迎えます。これを機に20年間の哲学講座と講座から生まれた「哲学読書会」の活動をふり返る文章を市民の方にお寄せいただきました。初参加の方もぜひご参加ください。

〈哲学講座〉

長谷川宏さんと読む『日本精神史 近代篇 上』

講　師　長谷川　宏（哲学者）

ヘーゲルの翻訳や哲学研究で多くの著作がある長谷川宏さんを講師に、10月に刊行された自著『日本精神史　近代篇　上』をテキストとして「哲学講座」を開講します。

幕末の大転換期から20世紀の終わりにいたるまでの130年に及ぶ時代の精神を、美術・思想・文学の三領域にわたる文物や文献から長谷川さんと読み解いてみませんか。

人々の作り出した近代における壮大かつ激しい精神の大河を、５回にわたって探求します。

※テキストの『日本精神史　近代篇　上』（講談社選書メチエ）をご用意ください。

〈長谷川さんの著訳書〉

ヘーゲル『精神現象学』（作品社）の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞受賞。『初期マルクスを読む』（岩波書店）、『高校生のための哲学入門』（ちくま新書）、『ことばをめぐる哲学の冒険』（毎日新聞社）、『双書哲学塾　生活を哲学する』（岩波書店）、『ちいさな哲学』（春風社）ほか多数。

と　き　１月13日、20日、27日、２月10日、17日（全５回）
いずれも土曜日、昼２時～４時

ところ　公民館　３階講座室

定　員　30名（申込先着順）※原則全回出席できる方
市内在住者優先、定員に達しない場合は市外在住者も参加可能

申込先　市内在住の方　12月12日（火）朝９時～
市外在住の方　12月19日（火）朝９時～
公民館☎（572）５１４１

▲哲学講座の様子

地域の公民館で、大人が学ぶということ

哲学読書会　富田　和枝

先日、某所で東京大学名誉教授の佐藤一子さんの「九条俳句訴訟」のお話を聴いた。さいたま市公民館だよりで「梅雨空に『九条守れ』の女性デモ」の俳句が不掲載となり、作者が提訴、最高裁で勝訴となった件である。

お話で印象に残ったのは、作者の属す公民館のサークル「俳句会」はお互いに批評することで深い相互学習の機会となっているとの弁護士解釈、佐藤さんが他の公民館への電話取材で聞いた、公民館は文化創造をしていて、地元文化人と市民の活動に公民館側で意見は言いませんという回答。

20年前、公民館の職員さんの一人が在野の哲学者・長谷川宏さんを見つけて、企画してくれた哲学講座「長谷川宏さんと読む一冊の本」は、まさに日々を暮らす市民と地元文化人（先生は近隣市在住）の、互いに議論をする相互学習の場であると改めて気がついた。

そして、講座が始まった直後に生まれた、私たちの自主サークル「哲学読書会」も20年になる。毎月第一土曜日午後に、自分たちで選んだ一冊の哲学書を下敷きに、激しい議論を交わしている。最近、NHK・Eテレ「100分で名著」でもやっていたが、古代ギリシャのアリストテレス倫理学の中庸な考え方が、現代を生きる自分たちにもある種の参考になるよねと話し合ったり、『人間の条件』でハンナ・アーレントの言う人間の条件は政治参加でしょという私の解釈に皆が賛否を呈したりする。そして、参加者たちは新たな月の毎日の暮らしの場に散っていく。

20年の間に、参加者は様々入れ替わった。別の活動に旅立った若い人たち、物故した方たち、読書会に参加しつつ地域の活動に活躍する人、新たに他市からはるばる参加して来る人、日常から離れて爽やかな時間が過ごせると言ってくれた困難を抱えた人……。

私自身は、哲学講座そして哲学読書会こそ「自己学習と相互学習で学ぶことの最たるもの」、人生に欠かせないものと思っています。

講師の長谷川宏さん

哲学講座について

哲学読書会　石垣　礼子

長谷川宏さんの国立市公民館での哲学講座が今年度で20年目になると知り、長きにわたり、雪の日も、講座を欠かさず市民のために続けてくださったことに感謝申し上げたいと思います。

ひとりでは難解だと思われたテキストも講座で共に読むことで異なった視点が与えられる。その気づきには発見の楽しさがあり、いわゆる哲学思想も私たちのふつうの生活からかけ離れたものではないことを学べた、市民講座らしい貴重な機会だったと思います。

講座の中では長谷川先生が書物の世界だけではなく、主宰する〝赤門塾〟で子どもたち一人ひとりに真剣に向き合ってきたこと、そうした現場を大切にしてこられたことを感じます。美術、文学など作品への向き合い方、戯曲は赤門塾の演劇祭など塾の行事とも深く関係していることを知りました。

長谷川先生は、私が初めて参加した2005年のテキスト『同時代人サルトル』（講談社学術文庫2001年）の著者あとがきに「サルトルを論じつつ日本の戦後という自分の生きた時代をふりかえってみたい、という思いがあった」とすでに書いておられます。

日本の近代から戦後にいたるまでを描くという思いを実現された『日本精神史　近代篇』の講座を楽しみにしています。

国立市公民館主催「哲学講座」使用テキスト一覧

開講年	使用テキスト	著者	出版社
2004	『社会契約論』	ルソー	岩波文庫
2005	『同時代人サルトル』	長谷川宏	講談社学術文庫
2006	『美術の物語』	ゴンブリッチ	ファイドンジャパン
2007	『先祖の話』	柳田国男	ちくま文庫
2008	『芸術の体系』	アラン	光文社古典新訳文庫
2009	『自由論』	ミル	光文社古典新訳文庫
2010	『経済学・哲学草稿』	マルクス	光文社古典新訳文庫
2011	『ハムレット』『リア王』	シェイクスピア	白水社
2012	『曽根崎心中』『心中天の網島』	近松門左衛門	新潮社
2013	『徒然草』	吉田兼好	岩波文庫
2014	『忘れられた日本人』	宮本常一	岩波文庫
2015	『日本精神史(上)』	長谷川宏	講談社
2016	『日本精神史(下)』	長谷川宏	講談社
2017	『日本精神史(上)(下)』	長谷川宏	講談社
2018	『幸福とは何か』	長谷川宏	中公新書
2019	『戦後思想を考える』	日高六郎	岩波新書
2020	『苦海浄土』	石牟礼道子	講談社文庫
2021	『柳宗悦』	鶴見俊輔	平凡社選書
2022	『歴史とは何か』	E・H・カー	岩波新書
2023	『日本精神史　近代篇　上』	長谷川宏	講談社選書メチエ

〈野鳥観察フィールドワーク〉

くにたちバードウォッチング入門

木々が葉を落とし視界がひらける冬は、バードウォッチングに最適な季節です。くにたちの特徴的な地形であるハケ沿いには、豊かな樹々や湧き水などがあり、たくさんの種類の野鳥たちが集まっています。

第１回目は城山からママ下湧水を歩き、主に里山の鳥をたずねます。第２回目は、多摩川周辺の主に冬を越す渡り鳥などの水鳥をたずねます。運が良ければ、“飛ぶ宝石”カワセミに出会えるかも……？初心者や親子での参加も歓迎です。この冬、くにたちでバードウォッチングをはじめてみましょう。

講　師　佐伯　元行（国立あおいとり保育園　園長）
　　中島　徹也（くにたち野鳥観察会）

第１回　１月28日（日）朝10時～12時頃
【観察コース】城山～ハケ周辺

第２回　２月18日（日）朝10時～12時頃
【観察コース】多摩川周辺

※雨天の場合は、公民館でスライドを見ながら野鳥のお話をうかがいます。
※各回１回のみの参加も可能です。

集　合　第１回　郷土文化館前
　　第２回　南区公会堂前
持ち物　筆記用具、双眼鏡等
定　員　各回15名（申込先着順）
申込先　12月15日（金）朝９時～
　　公民館☎（572）５１４１

〈図書室のつどい〉

旅が教えてくれた人生と仕事に役立つ100の気づき

お　話　小林　希（のぞみ）（旅作家、㈱Officeひるねこ代表）

著者の小林さんは、勤めていた出版社を29歳で退社し、世界放浪の旅に出ました。以来、60カ国以上を旅した小林さんは、自身の旅遍歴を振り返り、旅を通じて気づいたことや自身の想いを表題作に綴りました。実体験の中から生まれた小林さんの言葉は、これから新しい世界へ踏み出そうとしている人の背中をそっと押してくれます。

一般社団法人日本旅客船協会の「船旅アンバサダー」や島の宝観光連盟の「島旅アンバサダー」も務める小林さんに、旅作家になるまでの経緯や、世界中の旅遍歴、日本の船旅や島旅のお話をしていただきます。旅の魅力や異文化、日本の島旅について学び、旅を通じて得られたことを日常の暮らしの中で生かしていく考えを学ぶ機会になればと思います。

＜小林さんの本＞　表題作（産業編集センター）、『恋する旅女、世界をゆく ― 29歳、会社を辞めて旅に出た』、『旅作家が本気で選ぶ！週末島旅』（いずれも幻冬舎）、『週末海外－頑張る自分に、ご褒美旅を－』、『大人のアクティビティ！－日本でできる28の夢のような体験－』（ワニブックス）ほか。

と　き　１月13日（土）朝10時～12時
ところ　公民館　地下ホール
定　員　60名（申込先着順）
申込先　12月７日（木）朝９時～
公民館☎（572）５１４１

〈CINEVOX（シネボックス）　公民館映画会〉

『太陽がいっぱい』

PLEIN SOLEIL

フランス＝イタリア　1960年　カラー　117分　※ＤＶＤ版

監督　ルネ・クレマン　**原作**　パトリシア・ハイスミス
撮影　アンリ・ドカエ　**音楽**　ニーノ・ロータ
出演　アラン・ドロン、モーリス・ロネ、
マリー・ラフォレ　ほか

青い地中海。ギラギラと焼けつく太陽。野心に満ちた貧しい青年は、ひとり完全犯罪に挑む―。英国の女流推理作家パトリシア・ハイスミスの代表作を『居酒屋』『禁じられた遊び』で知られる巨匠ルネ・クレマンが映画化。

瑞々しい躍動感、突き放したような冷徹さ、甘美なロマンチシズムをかき立てるニーノ・ロータのメロディ……それらの不思議な調和が、 翳りある青年の悪の魅力と哀しさを際立たせ、当時、無名の存在だったアラン・ドロンを一躍世界的な大スターに押し上げた。

と　き　12月17日（日）昼２時～（開場昼１時30分）
※前回までと開場時間を変更しましたのでご注意ください。
ところ　公民館　地下ホール　**定　員**　70名（申込先着順）
申込先　12月８日（金）朝９時～　公民館☎（572）５１４１
＊事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。
＊換気のため、途中で10分程度休憩を設けます。ご了承ください。

第60回東京都公民館研究大会

『個』から始まる社会教育

～人と人を結ぶ“公民館”の在り方について～

東京都公民館連絡協議会主催の研究大会が開催されます。

今年度は、基調講演と３つの課題別集会に分かれて東京の公民館に関わる英知を結びます。

個人を尊重しながら、人と人が出会い、地域で学びあいの輪が広がり、そこで生活の課題や新たな気づきが共有され、地域のつながりを豊かにしていく循環を創り出していくことが公民館の課題になっています。ライフスタイルの多様化やインターネット環境の変化をはじめ、「学び方」の選択肢が広がったいまこそ、『個』から始まり人と人とを結ぶ公民館・社会教育の在り方について、共に考えましょう。

■基調講演　新藤　浩伸（東京大学）

■３つの課題別集会　※会場が異なります。
【第一課題別集会】（会場　国分寺市立本多公民館）
テーマ：公民館だからできる世代を超え人と人をつなぐ仕掛けや展開のある事業
【第二課題別集会】（会場　国分寺市立本多公民館）
テーマ：東京都公民館連絡協議会の未来を考えるあり方検討会の中間報告
【第三課題別集会】（会場　国立市公民館）
テーマ：多様な人がつどい、学びあう公民館への挑戦

※第三課題別集会参加者は、国立市公民館にて基調講演を聴講します。講師は国分寺市立本多公民館で講演し、リアルタイムで国立市公民館へ配信します。
＊どなたでもご参加できます。お気軽にお問合せください。
＊詳細は公民館にある大会開催要項をご覧ください。

と　き　２月３日（土）昼12時半～夕４時半
参加費　1,000円
申込・問合せ先　公民館　☎（572）５１４１
※国立市公民館は東京都公民館連絡協議会に加盟しています。

ー２月分(ロビー３月分)
会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	12月２日(土) ～21日(木)
公用使用の貼り出し	12月８日(金)頃
予約の重なりのあった団体の掲示開始日(国立市 HP にも掲載)	12月23日(土) ▶重なり状況
会場調整会	１月６日(土)朝10時～

・予約の重なりのある、なしに関わらず、電話による連絡はいたしません。(ご不明な点は、公民館へお問い合わせください。)
・会場調整会へは、予約の重なりのあった団体が、第１希望の会場がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方１名がご参加ください。
公民館☎(572) ５１４１

会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

公民館運営審議会報告

11月14日(火)第34期第13回定例会を開催。委員14名。館長、職員２名出席。傍聴人３名。

前回議事録確認
議事録修正あり。今後、確認用議事録はメール送付を基本とし、希望する委員には定例会で紙面での配布をする方針へと変更。

報告事項
公民館だより編集委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、社会教育学習会より報告。来年２月３日(土)開催の第60回東京都公民館研究大会開催要項についての案内。

審議事項
○人事要望案について
前回に引き続き、委員長・副委員長提案の人事要望案について審議。公民館職員の専門性やあるべき姿、配属年数の適切さなど、職員の声も聞きながら、要望書について意見交換。次回の定例会で引き続き協議し、要望書の完成を目指すこととなった。
○諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」
会場調整会を主な例として挙げながら、市民にとっての公民館の利用に生じる課題などについて審議。引き続き、次回以降への継続審議。
次回12月12日(火)夜７時15分から３階講座室。傍聴歓迎。
(森本)

地域で日本語支援をしたい人のための
日本語教育入門

地域で日本語を学んでいる外国にルーツのある方々に、日本語を教えてみたいと考えている方のための講座です。日本語を教える際に必要なことを、理論・実践の両方から学んでいきます。(全８回)
※講座終了後に、日本語サポートボランティアの活動内容について紹介があります。

◆総論篇：１月９日(火)
～地域の日本語ボランティアの役割とは～
講　師：林川　玲子
(東京日本語ボランティア・ネットワーク)

◆体験篇：１月13日(土)※
～日本語学習者の気持ちになってみよう～
講　師：ムラドリ　アイダン
(一橋大学　言語社会研究科修了生)

◆理論篇：１月23日、30日、２月６日(火)
～日本語教育のための文法事項や文型について～
講　師：庵(いおり)　功雄(一橋大学・日本語教育)

◆実践篇：２月13日、20日、27日(火)
～地域日本語教室の現状理解と実践演習～
講　師：志村　ゆかり(一橋大学・日本語教育)

と　き　火曜日、夜６時～８時
ところ　公民館　３階講座室(１/９、２/13は集会室)
※１月13日(土)は昼２時～４時に３階集会室で実施
定　員　18名(申込先着順)

申込先　市内在住・在学・在勤かつ全回出席できる方　12月７日(木)朝９時～
上記以外の方　12月15日(金)朝９時～
費　用　テキスト代実費　※2,200円程度
(『にほんごこれだけ！１・２』ココ出版)

〈くにたちブッククラブ　記憶の欠片をひろい集めて〉
安部公房『箱男』
(新潮文庫)

講　師　大野　亮司(亜細亜大学・日本近代文学)
と　き　12月14日(木)夜７時半～９時半
ところ　公民館　地下ホール
定　員　30名(申込先着順)
申込先　公民館☎(572) ５１４１
＊この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

ひろば

水泳「とびうお」会員募集

健康維持・体力増進に、温水プールで楽しく泳ぎませんか！会員は女性のみ。女性コーチの親切な指導で、レベル別に泳いでいます。体験水泳可。

日時　毎週火曜日昼12時～2時
場所　総合体育館地下室内プール
連絡先　高橋（577）３９３７

カルガモ（八ケ）
撮影　中島 徹也
（くにたち野鳥観察会）

硬式シニアテニス　会員募集

平日の午後は一緒に楽しいテニスをしませんか。特に60歳以上男女問わず大歓迎。まずはビジター体験からお気軽にご参加ください。「トレンディテニスクラブ」まで

日時　毎週㈫矢川　毎週㈮谷保
場所　市内矢川、谷保各コート
連絡先　若松090（4596）９４６７

ピックルボール12月体験会

ビルゲイツ、ディカプリオも愛好している今を時めく新スポーツ。テニス・バドミントン・卓球の要素を併せ持ち、幅広い年齢層がプレーできます。運動靴のみ持参。

日時　11㈪20㈬25㈪夕６時～９時
場所　くにたち市民総合体育館Ａ
連絡先　冨田070（5594）３１６７

国立あひる、クリスマスを歌う

ア・カペラ女声三部のコーラスグループです。世界平和を祈りつつ、ご自身の一年間の頑張りを慰労して旧駅舎でクリスマスソングをご一緒に歌いませんか?!

日時　12月15日㈮　昼３時～
場所　旧国立駅舎広間
連絡先　清水（575）４３８３

クリスマス・コンサート開催

来年3月17日の定期演奏会を控え日頃の練習成果を披露します。皆様、クリスマスソングを一緒に歌いませんか。お気軽にお越しください。くにたち混声合唱団ときわ

日時　12月10日㈰　昼３時開演
場所　スペースコウヨウ６階
連絡先　高橋090（7194）７４２６

くにたちデジタルブック

過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

▶くにたちデジタルブックQRコード

国立市デジタルライブラリー　検索

公民館　年末年始のお知らせ

12月29日㈮～1月3日㈬

この期間は、公民館全体がお休みになります。

また、2月分の会場調整会は、**1月6日㈯**朝10時から行います。

参加申込書投入期限は**12月21日㈭**夜10時までです。

（会場調整会については、7ページをご覧ください。）

〈サークル訪問386〉

国立短歌会

ほんの三十一文字の短い言葉ではっとするような美しい情景が目に浮かぶ。「ああ、わかる、わかる」と思えるような生活の一コマを描き出す。短歌にはずっと憧れがあったので、今回国立短歌会を取材するのを楽しみにしていた。

例会は月１回。各自が詠んだ短歌の合評を行う。この日は会員５名が参加。合評はまず作者が自作の短歌を読み上げ、その歌の背景や詠んだ経緯について説明する。その後、会員が次々と感想や意見を述べていく。大切にしていることは「気づいたことは何でも自由に話し合う」ことだそうで、本当に遠慮せずにお互いの歌について一語一句、言葉や漢字の選び方、語順など率直に意見を述べ合っていた。「秋風に雑草の丈低くして雑草魂地下に蔓延る」という短歌について。「涼しくなると今まで丈の高かった雑草（ドクダミ）が草刈りをしたわけでもないのに丈が低くなる。しかしその根っこは地下にたくましく蔓延っている」という作者の説明に対して「これだと風に吹かれて一時的に丈が低くなっているともとれる」「具体的にドクダミという名称を使ったほうがイメージしやすい」などの意見が出される。「ドクダミが勢いを失っても地面の下でしっかり根を張っているという直接観測できないものを表現しているところは良い」と評価の声もあがる。作者はそれらの意見を参考にさらに推敲するとのこと。まさに切磋琢磨という表現がしっくりくる光景にワクワクした。

会が始まってから25年。最初の十年ほどは歌人の先生のもとで行っていたが、先生がご都合で辞められてからも、会員相互で合評会を続けているそうだ。

随時入会歓迎。会費月200円。初めての方でも大丈夫とのこと。興味のある方はぜひご連絡を。

日時　第２金曜日
昼１時半～４時
場所　公民館
連絡先　成松　050（3550）３３９６

〈文・写真　池田　祐子〉

言葉の芸術作品が作りあげられていく